

日本における中国考古学関係文献目録(1993 年)

廣川 守・江 介也

1. 本目録は、1993 年 1 月から 12 月に、日本で刊行された中国考古学関係文献の目録である。
2. 東洋史・美術史関係の著作については、出土資料および石窟を扱ったものを主として収録した。
3. 本目録作成にあたっては、『季刊考古学』、『史学雑誌』等を参照させていただいた。
4. 項目は、単行本、展覧会図録、論文、翻訳・訳注、動向、紹介に分けた。
5. 各項目内の文献データは、月毎に著者名による 50 音順で配列した。

【単行本】

1 月

- 宇田川武久『東アジア兵器交流史の研究』吉川弘文館
- 羽田武栄『徐福ロマン』亜紀書房

2 月

- 池田知久『馬王堆漢墓帛書五行篇研究』汲古書院
- 徐朝龍・NHK 取材班『謎の古代王国 三星堆遺跡は何を物語るか』NHK 出版
- 橋本敬造『中国占星術の世界』東方書店
- 林巳奈夫『龍の話』中央公論社

3 月

- 浦野俊則『近出殷周金文集成第 3 集（文物 1983.1-1991.12）』二松学舎大学東洋学研究所
- 王巍『中国からみた邪馬台国と倭政権』雄山閣出版
- 周汎・高春明『中国五千年 女性装飾史』京都書院

4 月

- 袁珂著 鈴木博訳『中国の神話伝説』青土社
- 葛兆光著 坂出祥伸訳『道教と中国文化』東方書店
- 張晋藩著 真田芳憲監修 何天貴・後藤武秀訳『中国法制史 上』中央大学出版部

5 月

- 日本ミイラ研究グループ編『日本・中国ミイラ信仰の研究』平凡社
- 傅起鳳・傅騰竜著 岡田陽一訳『中国芸能史 雑技の誕生から今日まで』三一書房

6 月

●奈良県立橿原考古学研究所編『貿易陶磁一奈良・平安の中国陶磁一』財団法人由良大和古文化研究協会

7月

●上原淳道『上原淳道中国史論集』汲古書院

●江上波夫・上田正昭監修『第1回東アジア歴史国際シンポジウム東アジアの古代をどう考えるか』飛鳥評論社

8月

●寺尾善雄『中国文化伝来事典』河出書房新社

●山口修・鈴木啓造・五味充子監修『中国の歴史散歩1』山川出版社

9月

●佐原真『騎馬民族は来なかった』NHK出版

●吉田集而『東方アジアの酒の起源』ドメス出版

10月

●井上秀雄『古代東アジアの文化交流』溪水社

●張臨生・楊新編 西村康彦・田川純三監訳『故宮の至宝一台北故宮博物院・北京故宮博物院』NHK出版

●西林昭一『ガイド・中国の書石刻・遺跡・博物館』

●門田誠一『海でむすばれた人々』同朋舎出版

11月

●小田富士雄・西谷正・申敬澈・安在皓・宋桂鉉・金斗喆・東潮・武末純一『伽耶と古代東アジア』新人物往来社

12月

●大庭脩編『漢簡研究国際シンポジウム'92 報告書 漢簡研究の現状と展望』関西大学出版部

●加藤九祚・前島信次『シルクロード事典』芙蓉書房

●佐藤武敏監修 工藤元男・早苗良雄・藤田勝久訳注『馬王堆帛書 戦国縦横家書』朋友書店

●堀敏一『中国と古代東アジア世界』岩波書店

●森浩一編『古代 埋もれた馬文化』財団法人馬事文化財団

【展覧会図録】

1月

●大阪市立東洋陶磁美術館編『中国陶磁シリーズ6 越州窯の青磁Ⅰ一古越磁の造形一』

3月

●国立民族学博物館編『民族学の先覚者 鳥居龍蔵の見たアジア』

4 月

- 朝日新聞社編『中国・南海沈船文物を中心とするはるかなる陶磁の海路展ーアジアの大航海時代ー』
- 柏原市立歴史資料館編『東洋古陶磁と招来茶陶展』
- 堺市博物館編『博多と堺』
- 佐賀県西松浦郡有田町編『中国古陶磁への誘いー中国古陶磁展ー』
- 樋口隆康・徐萃芳編『中国王朝の誕生 黄土に咲いた歴史とロマンー夏・殷・周時代遺宝』読売新聞社

6 月

- 東京国立博物館編『上海博物館展』

7 月

- 町田市立博物館編『ベトナム陶磁』

8 月

- （財）日中友好会館文化事業部編『中国 5000 年の秘宝 北京故宮博物院展』

9 月

- 浦添市美術館編『漆の貌 中国・朝鮮・日本』
- 財団法人長崎孔子廟中国歴代博物館企画 中国国立歴史博物館監修『中国古代文物展図集』

10 月

- 和泉市久保惣記念美術館編『隋唐時代の金銅仏』
- 大阪府立弥生文化博物館編『弥生人の見た楽浪文化』
- 中近東文化センター編『古く美しきもの 石黒孝次郎氏遺贈品展』
- 徳島県立博物館編『徳島の生んだ先覚者 鳥居龍蔵の見たアジア』
- 福岡県教育委員会編『アジア文明交流展 邪馬台国への道のり』

11 月

- いわき市立美術館編『揚州博物館所蔵作品による中国美術二千年の精華展』
- 西日本新聞社企画『オランダ・ハーグ市立美術館所蔵品を中心とした陶磁の東西交流展 有田・デルフト・中国の相互影響』

【論文】

1 月

- 石松日奈子「弥勒像坐勢研究ー施無畏印・倚坐の菩薩像を中心にー」（『MUSEUM』502, 4～26 頁）
- 来村多加史「徹底検証・中国古代軍事力の実態ー戦国から項・劉までの戦争とはー」（『項羽と劉邦（上）ー龍虎，秦滅尽への鋭鋒ー』歴史群像シリーズ 32, 116～127 頁）

- 佐原康夫「南陽瓦房莊漢代製鉄遺跡の技術的検討」(『史林』76-1, 121～134 頁)
 - 高橋庸一郎「□文化の周への継承について」(『阪南論集』人文・自然科学編 28-3, 1～14 頁)
 - 角谷常子「漢代居延における軍政系統と県と関わりについて」(『史林』76-1, 33～64 頁)
 - 永田英正「新居延漢簡の概観」(『東方学』85, 38～52 頁)
 - 藤野明「ブロンズとその技術—古代中国の場合—」(『東アジアの古代文化』74, 19～25 頁)
 - 林華東「中国・朝鮮・日本をつなぐ稲作の道」(『東アジアの古代文化』74, 72～82 頁)
- 2 月
- 古賀登「広都の野」(『東方』143, 2～5 頁)
 - 竹内康浩「裘衛諸器銘文考釈 陝西省岐山県董家村出土青銅器の研究(1)」(『東京大学東洋文化研究所紀要』120 1～42 頁)
 - 谷口満「蘇州古代史(i) 城郭構造」(『東北学院大学論集(歴史学・地理学)』25, 123～173 頁)
 - 富谷至「漢簡」(滋賀秀三編『中国法制史—基本資料の研究—』東京大学出版会, 127～152 頁)
 - 濱島正士「中国福建省の古塔」(『国立歴史民俗博物館研究報告』50, 219～231 頁)
 - 松丸道雄・竹内康浩「西周金文中の法制史料」(滋賀秀三編『中国法制史—基本資料の研究—』東京大学出版会, 3～55 頁)
 - 松丸道雄・西田龍雄・伊藤道治他「中国四千年前の謎の「文字」」(『AERA』6—8, 6～14 頁)
 - 馬淵久夫「東アジアの土器・青銅器の保存科学的研究」(『学術月報』46—2, 19～24 頁)
 - 糸山明「雲夢睡虎地秦簡」(滋賀秀三編『中国法制史—基本資料の研究—』東京大学出版会, 97～126 頁)
- 3 月
- 秋山進午「夏家店下層文化の諸問題」(『東北アジアにおける文明の源流の考古学的研究』, 101～105 頁)
 - 秋山進午「遼寧省東部地域の青銅器文化について」(『東北アジアにおける文明の源流の考古学的研究』, 106～115 頁)
 - 秋山進午「遼寧省凌源県三官甸子城子山石城遺跡考古測量調査」(『東北アジアにおける文明の源流の考古学的研究』, 51～63 頁)
 - 秋山進午「王莽鑄銭の技術と意義」(『考古論集—潮見浩先生退官記念論文集—』, 897～918 頁)
 - 浅原達郎「『熱中』の人—一端方伝—(五)」(『泉屋博古館紀要』9, 86～112 頁)
 - 浅原達郎「楚文字の「陵」について」(『中国出土文字資料の基礎的研究』, 8～12 頁)
 - 網干善教「鑾(車鑾) 巧」(『関西大学考古学研究室開設四拾周年記念考古学論叢』, 1023

～1062 頁)

- 安志敏「中国遼東半島の史前文化」(『東方学報』65, 1～21 頁)
- 池田雄一「戦国楚の法制一包山楚簡の出土によせて一」(『中央大学文学部史学科紀要』38) 73～98 頁)
- 石渡美江「甘肅省靖遠出土鎏金銀盤の図像と年代」(『古代オリエント博物館紀要』13, 147～165 頁)
- 上田早苗「王莽政権と居成新簡」(『中国中世の文物』, 31～44 頁)
- 江村治樹「イギリス博物館所見の中国古代青銅武器」(『名古屋大学東洋史研究報告』17 74～85 頁)
- 大島誠二「秦における洞室墓の出現とその背景」(『中央大学アジア史研究』17, 24～42 頁)
- 大貫静夫「遼東史前陶器」(『東北アジアにおける文明の源流の考古学的研究』, 177～180 頁)
- 大貫静夫「遼寧省鳳城縣東山大石蓋墓墓地考古測量調査」(『東北アジアにおける文明の源流の考古学的研究』, 88～100 頁)
- 岡村秀典「試論史前中国戦争的起源」(『東北アジアにおける文明の源流の考古学的研究』, 181～187 頁)
- 岡村秀典「遼東半島与山東半島史前文化的交流」(『東北アジアにおける文明の源流の考古学的研究』, 192～196 頁)
- 岡村秀典「先史時代中国東北地方の聚落と墓地」(『東北アジアにおける文明の源流の考古学的研究』, 200～203 頁)
- 岡村秀典「遼寧省阜新縣化石郷南梁遺跡考古測量調査」(『東北アジアにおける文明の源流の考古学的研究』, 64～74 頁)
- 小澤正人「黄河中下流域における新石器時代から西周時代の土器焼成」(『史観』128, 49～63 頁)
- 小山田宏一「画紋帯同向式神獸鏡とその日本への流入時期一鏡からみた「3 世紀の歴史的枠組み」の予察一」(『大阪府立弥生文化博物館研究報告』2, 231～270 頁)
- 加藤修「南北朝から隋・唐代の2 室墓の性格一墳墓の階層性の視点から一」(『女子美術大学紀要』23, 49～66 頁)
- 気賀澤保規「法門寺出土の唐代文物とその背景一碑刻「衣物帳」の整理と分析から一」(『中国中世の文物』, 581～641 頁)
- 来村多加史「明孝陵の地相分析」(『関西大学考古学研究室開設四拾周年記念考古学論叢』, 1063～1082 頁)
- 久米雅雄「『魏志倭人傳』にあらわれたる「邸閣」について一中国古印資料からのアプローチ」(『大阪府立弥生文化博物館研究報告』2, 213～230 頁)
- 胡江「中国における土器の起源と発展一早期土器の容姿一」(『史学研究集録』18, 5～

22 頁)

- 河野道房「北[]婁叡墓壁畫考」(『中国中世の文物』, 137～180 頁)
- 甲元眞之「中国先史時代の漁撈」(『考古論集—潮見浩先生退官記念論集—』, 845～858 頁)
- 小南一郎「神亭壺と東吳文化」(『東方学報』65, 223～312 頁)
- 坂梨祐子「多鈕鏡の様相と分布について—一鏡背面文様の間区にみる個性と共通点—」(『北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室研究紀要』7, 1～14 頁)
- 佐野元「中国春秋戦国時代の農具鉄器化の諸問題」(『考古論集—潮見浩先生退官記念論集—』, 873～896 頁)
- 佐原康夫「漢代[]專賣制の再検討」(『中国中世の文物』, 45～81 頁)
- 徐朝龍「三星堆遺跡における二つの遺物埋納土穴の性格をめぐって—「一号坑」を「鳧蜀王滅族坑」, 「二号坑」を「魚鳧宗廟破壊坑」と説く」(『茨城大教養部紀要』25, 49～66 頁)
- 徐朝龍「中国青銅文明の中で異彩を放つ三星堆遺跡の青銅遺物群」(『五浦論叢 茨城大教五浦美術研究所紀要』1, 54～72 頁)
- 白石典之「北東アジアの細石刃石器群—技術よりみた時間・空間的変遷とその背景—」(『筑波大学先史学・考古学研究』4, 1～29 頁)
- 白木原和美「東南アジアの青銅斧と熔范」(『考古論集—潮見浩先生退官記念論集—』, 919～926 頁)
- 杉本憲司「中国考古学よりみた日本古代」(『考古学 その見方と解釈』下, 275～297 頁)
- 澄田正一「1941 年四平山積石墓的調査」(『東北アジアにおける文明の源流の考古学的研究』, 167～170 頁)
- 曾布川寛「龍門石窟における北朝造像の諸問題」(『中国中世の文物』, 181～223 頁)
- 曾布川寛「漢代画像石における昇仙図の系譜」(『東方学報』65, 23～221 頁)
- 高久健二「楽浪墳墓の編年」(『考古学雑誌』78—4, 33～77 頁)
- 高橋庸一郎「「秦本紀」文公以前について」(『阪南論集』人文・自然科学編 28—4, 9～16 頁)
- 谷一尚「鹿文銀盤の編年と意匠 正倉院藏品と中国出土例」(『共立国際文化』3—2, 159～178 頁)
- 谷川道雄「東西兩魏時代の河東豪族社會—「敬史君碑」をめぐって—」(『中国中世の文物』, 457～478 頁)
- 張宏彦「東アジア大陸の石器文化から見た日本の縄文文化—石鏃を中心として—」(『橿原考古学研究所紀要 考古学論攷』17, 1～18 頁)
- 辻正博「「郭氏家廟碑」小考」(『中国中世の文物』, 479～508 頁)
- 鶴間和幸「秦帝国の形成と東方世界」(『茨城大教養部紀要』25, 1～27 頁)
- 鉄獅子保存処理研究班「住友家鉄獅子像の保存処理」(『泉屋博古館紀要』9, 3～38 頁)

- 富谷至「大英圖書館所蔵の敦煌漢簡」(『中国中世の文物』, 1～29 頁)
- 中砂明德「唐代の墓葬と墓誌」(『中国中世の文物』, 371～414 頁)
- 中村圭爾「江南六朝墓出土陶瓷の一考察」(『中国中世の文物』, 83～135 頁)
- 中山清隆「朝鮮・中国東北の突帯文土器」(『古代』95, 451～464 頁)
- 西江清高「西周式土器成立の背景(上)」(『東洋文化研究所紀要』121, 1～136 頁)
- 西川宏「中国における渤海考古学の成果と課題」(『青丘学術論集』3, 43～92 頁)
- 林巳奈夫「殷周時代の鬼神の戴く茸形の角について」(『泉屋博古館紀要』9, 39～69 頁)
- 樋口隆康「稲作は倭人が将来した」(『考古論集一潮見浩先生退官記念論文集一』, 303～308 頁)
- 平勢隆郎「日本近世の亀趺碑一中国および朝鮮半島の歴代亀趺碑との比較を通して一」(『東洋文化研究所紀要』121, 1～85 頁)
- 廣川守「大凌河流域殷周青銅器調査報告」(『東北アジアにおける文明の源流の考古学的研究』, 116～128 頁)
- 廣川守「新収の圈帶有舌龍文鏡について」(『泉屋博古館紀要』9, 113～124 頁)
- 福原啓郎「西晋の墓誌の意義」(『中国中世の文物』, 315～369 頁)
- 松井嘉徳「「県」制遡及に関する議論及びその関連問題」(『泉屋博古館紀要』9, 70～85 頁)
- 三船温尚・清水克朗「中国古代青銅器の鑄造技法 その一 金文の鑄造方法に関する調査報告及び考察」(『高岡短期大学紀要』4, 53～78 頁)
- 宮本一夫「上馬石上層文化的研究」(『東北アジアにおける文明の源流の考古学的研究』, 171～176 頁)
- 宮本一夫「環渤海新石器時代早期的文化系統」(『東北アジアにおける文明の源流の考古学的研究』, 197～199 頁)
- 宮本一夫「遼寧省大連市金州区王山頭積石塚考古測量調査」(『東北アジアにおける文明の源流の考古学的研究』, 75～87 頁)
- 宮本一夫「遼東新石器時代編年の再研究」(『東北アジアにおける文明の源流の考古学的研究』, 188～191 頁)
- 麥谷邦夫「梁天監十八年紀年銘墓磚と天監年間の陶弘景」(『中国中世の文物』, 291～314 頁)
- 村上恭通「黒海北岸地域における中国製長剣ーボルガ河流域スラドコフスキー古墳の出土遺物からー」(『名古屋大学文学部研究論集』史学 39, 31～41 頁)
- 村上恭通「女真の鉄」(『考古論集一潮見浩先生退官記念論文集一』, 927～940 頁)
- 横田禎昭「中国先史時代の二次葬考」(『考古論集一潮見浩先生退官記念論文集一』, 859～872 頁)
- 4 月
- 秋山進午「独孤信墓誌と独孤開遠墓誌」(坪井清足さんの古稀を祝う会編『論苑考古学』,

817～840 頁)

- 飯島武次「夏殷周三代の研究課題」(『シンポジウム「夏・殷・周を探る」』, 19～30 頁)
- 金関恕「高庄墓出土の画象紋について」(坪井清足さんの古稀を祝う会編『論苑考古学』, 737～750 頁)
- 小泉和子「椅子と座」(『アジアのなかの日本史 VI 文化と技術』, 243～274 頁)
- 小南一郎「夏工朝をめぐる伝承」(『シンポジウム「夏・殷・周を探る」』, 5～11 頁)
- 澤田秀実「三角縁神獣鏡の製作動向」(『法政考古学』19, 17～37 頁)
- 徐朝龍「四川省三星堆出土青銅立人像のポーズについて」(『博古研究』5, 29～38 頁)
- 谷豊信「殷周王朝から秦漢帝国へ」(『シンポジウム「夏・殷・周を探る」』, 39～44 頁)
- 田村晃一「朝鮮半島北部の埴室墓について」(坪井清足さんの古稀を祝う会編『論苑考古学』, 709～736 頁)
- 町田章「戦国時代の耳杯」(坪井清足さんの古稀を祝う会編『論苑考古学』, 751～780 頁)
- 吉田恵二「長方形板石硯考」(坪井清足さんの古稀を祝う会編『論苑考古学』, 781～816 頁)
- 渡辺芳郎「中国におけるカマドの変遷と地域性ーカマド形明器からの検討ー」(『古文化談叢』29, 97～116 頁)

5 月

- 江坂輝彌「東シナ海をめぐる中国, 韓国, 日本の古代文化交流」(『弥生の王国ー東アジアの海からー』, 36・37 頁)
- 岡村秀典「江南農耕文化のひろがり」(『弥生の王国ー東アジアの海からー』, 79～81 頁)
- 岡村秀典「馬車から騎馬へ」(『しにか』4ー5, 8～13 頁)
- 笠野毅「漢鏡の銘文」(『季刊考古学』43, 73～78 頁)
- 金関恕「廟島列島の南長山島で出土した画像青銅器」(『弥生の王国ー東アジアの海からー』, 31～34 頁)
- 國分直一「越系民族文化雑考」(『弥生の王国ー東アジアの海からー』, 38～41 頁)
- 佐川正敏「アジアからシベリアへの人類の広がり シリーズ: 先史モンゴロイドを探る (5)」(『学術月報』46ー5, 66～73 頁)
- 佐々木高明「稲作のひろがり」(『弥生の王国ー東アジアの海からー』, 27～30 頁)
- 謝駿義・梶原洋・佐川正敏「中国新石器時代の植刃器の機能をさぐるー甘肅鴛鴦池遺跡 57 号墓の植刃器を中心にー」(『旧石器考古学』46, 73～82 頁)
- 徐朝龍「中国古代史は書き換えられるか」(『しにか』4ー5, 82～91 頁)
- 徐朝龍「中国古代のカメ棺埋葬」(『弥生の王国ー東アジアの海からー』, 136・137 頁)
- 杉本正年「騎馬民族と胡服」(『しにか』4ー5, 30～35 頁)
- 高野昌司「江南各地に「絹」を追う」(『弥生の王国ー東アジアの海からー』, 104～108 頁)
- 立木修「雲雷文帯連弧文鏡考ー漢中期の鏡ー」(『季刊考古学』43, 38～43 頁)
- 福田哲之「中華人民共和国建国後新獲敦煌漢簡に見出される小学書残簡」(『集刊東洋学』

69, 1～17 頁)

●藤原宏「楊子江流域の水田史を探る」(『弥生の王国—東アジアの海から—』, 82～84 頁)

●松崎つね子「戦国秦漢の墓葬に見る地下世界の変遷—馬王堆漢墓を手がかりに—」(『古代文化』45—5, 10～19 頁)

●松原三郎「隋造像様式成立の一考察—石造如来立像の場合—」(『佛教藝術』208, 102～112 頁)

●毛昭晰「羽人と海上の道」(『弥生の王国—東アジアの海から—』, 76～78 頁)

●横倉雅幸「東南アジア及び東南中国出土の獣形装飾品」(『東南アジア考古学会会報』13, 144～150 頁)

●吉本道雅「春秋晋覇考」(『史林』76—3, 69～107 頁)

●吉本道雅「馬牲」(『しにか』4—5, 14～21 頁)

●米沢容一「番仔園文化」(『東南アジア考古学会会報』13, 73～80 頁)

6 月

●關尾史郎「甘肅新出漢代曆様木簡の基礎的整理」(『東アジア—歴史と文化』2, 9～22 頁)

●高橋庸一郎「睡虎地秦簡《語書》釈文注解(下Ⅲ)」(『阪南論集』人文・自然科学編 29-1, 1～7 頁)

●鶴田一雄「曾侯乙墓に関する一考察」(『東アジア—歴史と文化』2, 1～15 頁)

●鄭禮京「北響堂山石窟における裸体形菩薩像の源流について」(『京都大学美学美術史学研究室研究紀要』14, 41～66 頁)

●町田吉隆「磚瓦生産に関する一考察」(『神戸高専紀要』31, 15～20 頁)

●八木春生「中国南朝の蓮華文様について」(『成城文芸』143, 144～106 頁)

●米渾嘉圃「中国古代における器物の圓形「空間構成」」(『國華』1171, 5～15 頁)

7 月

●伊藤道治「鼎銘とその社会的意義」(『関西外国語大学研究論集』58, 187～198 頁)

●加藤真二「中国遼寧省鴿子洞石器文化小考」(『古代文化』45—7, 36～43 頁)

●加藤博文「東シベリア後期旧石器時代の骨角製槍先について」(『古代文化』45—7, 11～26 頁)

●豊田久「について—対南方関係の西周青銅器—」(『鳥取大学教育学部研究報告』人文・社会科学編 44—1, 37～47 頁)

●豊田久「伯について—続・対南方関係の西周青銅器—」(『鳥取大学教育学部研究報告』人文・社会科学編 44—1, 49～59 頁)

●豊田久「成周王朝と「賓」(2) —甲骨文に見える賓について—」(『鳥取大学教育学部研究報告』人文・社会科学編 44—1, 25～36 頁)

●藤田高夫「漢簡中に見える軍功賞賜について」(『古代文化』45—7, 27～35 頁)

8 月

●荒木日呂子「東京国立博物館保管の甲骨片について—人頭骨刻字についての考察—」

(『MUSEUM』509, 4～13 頁)

- 岡村秀典「中国新石器時代の戦争」(『古文化談叢』30(下), 1245～1259 頁)
- 梶山勝「漢委奴國王」金印と弥生時代の文字」(『古文化談叢』30)
- 神谷尚武「中国河北省易県燕下都 44 号墓一発掘報告の抄訳とその解釈」(『古文化談叢』30(上), 33～44 頁)
- 木村光一「高句麗社会階層の研究—集安洞溝地区墳墓からみた—」(『古文化談叢』30(上), 117～135 頁)
- 関野雄「山東臨淄齊国故城の実測図」(『古文化談叢』30(中), 603～612 頁)
- 中村慎一「雲南の考古学と中国稲作の起源」(『しにか』4-8)
- 西川宏「朝鮮式山城の源流についての初歩的探求」(『古文化談叢』30)
- 長谷川道隆「唐代塔基地宮と金銀舍利容器」(『古文化談叢』30(中), 533～556 頁)
- 南秀雄「高句麗壁画の地軸像」(『古文化談叢』30(中), 945～952 頁)
- 山下志保「楚墓の基礎的研究」(『古文化談叢』30(下), 1277～1328 頁)

9 月

- 王妙発「内モンゴル高原の史前集落の初歩的研究」(『経済理論』255, 33～47 頁)
- 岡村秀典「ふたつの蛇紐金印」(『中日両国二千年来の文化交流と“滇王之印”金印』, 35～38 頁)
- 梶山勝「滇文化と“滇王之印”」(『中日両国二千年来の文化交流と“滇王之印”金印』, 18～19 頁)
- 亀井明德「唐代玉璧高台の出現と消滅時期の考察」(『貿易陶磁研究』13, 86～126 頁)
- 北村永「羽人像を中心とする「漢代神仙世界図」考」(『美学』174, 57～68 頁)
- 呉栄曾「滇文化の青銅製農具についての初歩的探究と検討」(『中日両国二千年来の文化交流と“滇王之印”金印』, 20～21 頁)
- 塩屋勝利「『漢委奴國王』金印をめぐる二、三の問題」(『中日両国二千年来の文化交流と“滇王之印”金印』, 22～23 頁)
- 高橋庸一郎「睡虎地秦簡《語書》釈文注解(下IV)」(『阪南論集』人文・自然科学編 29-2, 1～8 頁)
- 張振新「“滇王之印”“漢委奴國王”印の論証」(『中日両国二千年来の文化交流と“滇王之印”金印』, 39～42 頁)
- 杜正勝「道教の日本文化に対する影響—医療の歴史から見て—」(『中日両国二千年来の文化交流“滇王之印”金印』, 24～34 頁)
- 長谷部樂爾「ベトナム陶磁史構築のために」(『陶説』486, 15～19 頁)
- 林巳奈夫「饕餮＝帝説補論」(『史林』76—5, 78～118 頁)
- 松原三郎「大石仏考」(『佛教藝術』210, 92～96 頁)
- 森貞次郎「自由画風線刻壁画人物像にみる六朝文化類型」(『考古学雑誌』79—1, 19～43 頁)

- 門田誠一「百済の地方支配と中国陶磁器」(『貿易陶磁研究』13, 50～64 頁)
- 俞偉超「方形周溝墓と秦文化の関係」(『中日両国二千年來の文化交流“溟王之印”金印』, 7～17 頁)
- 李權生「中国先史時代の鼎類土器の展開—山東地域を中心として—」(『考古学雑誌』79-1, 44～72 頁)

10 月

- 東潮「遼東と高句麗壁画—墓主図像の系譜—」(『朝鮮学報』149, 1～46 頁)
- 合田芳正「錠前の変遷について(予察)」(『青山考古』11, 37～46 頁)
- 秋山進午「遼寧省東部地域の青銅器について」(『日本中国考古学会会報』3, 60～70 頁)
- 飯島武次「西周時代の関中と中原の土器」(『日本中国考古学会会報』3, 47～59 頁)
- 小澤正人「河南汝州地区における仰韶文化から中原龍山文化への土器変遷」(『日本中国考古学会会報』3, 1～24 頁)
- 小田木治太郎「オルドス青銅器飾金具に関する一考察—天理参考館蔵品を足掛かりに—」(『天理参考館報』6, 65～84 頁)
- 巽善信「三彩に関する一考察」(『天理参考館報』6, 85～96 頁)
- 町田恵保「三角縁神獣鏡考—景初二年問題と三角縁神獣鏡—」(『東アジアの古代文化』77, 180～201 頁) 上
- 宮本一夫「新石器時代の城址遺跡と中国の都市国家」(『日本中国考古学会会報』3.25～46 頁)
- 室山留美子「北朝隋唐の鎮墓獣に関する一考察」(『大阪市立大学東洋史論叢』10, 49～67 頁)
- 茂木雅博「中国の空墓」(『博古研究』6, 40～46 頁)
- 李權生「東・西アジアの彩文土器の花文様」(『博古研究』6, 19～34 頁)
- 李陳奇・許永杰・劉曉東「中国東北早期土器の様相」(『シンポジウム環日本海における土器出現期の様相—日本考古学協会 1993 年度新潟大会』, 13～20 頁)

11 月

- 赤井逸「黄鐘の数, 十有七萬七千四百四十七—古代中国度量衡論ノート—」(『鳥取大学教養部紀要』27, 125～137 頁)
- 白川静「「中国最古の文字説」は疑問」(『週刊金曜日』1)
- 量博満「石中葬について—その2—吉林図們江流域墓葬—」(『上智史学』38, 29～61 頁)
- 林温「中国の仙人と飛天」(『日本の美術—飛天と神仙—』330, 28～40 頁)
- 吉村苺子「楚墓鎮墓像の成立と展開」(『MUSEUM』512, 4～21 頁)
- 米澤嘉圃「上林苑闕獸圖の畫風—書と書の筆法—」(『國華』1176, 5～11 頁)

12 月

- 飯島武次「最近収集の西周陶鬲について」(『駒沢史学』46)
- 岡村秀典「中国先史時代石器の生産と流通—前三千年紀の遼東半島を中心に—」(『東ア

ジアにおける生産と流通の歴史社会学的研究』中国書店、3～23 頁)

- 岡村秀典「後漢鏡の編年」(『国立歴史民俗博物館研究報告』55, 39～83 頁)
- 笠野毅「中国古鏡銘仮借字一覧表(稿)」(『国立歴史民俗博物館研究報告』55, 207～227 頁)
- 亀井明德「南西諸島における貿易陶磁器の流通経路」(『上智アジア学』11, 11～46 頁)
- 小島登茂子「敦煌における隋代・唐代前期の山岳表現一大画面法華経変相図の成立をめぐって」(『名古屋大学文学部研究論集』美学美術史 11, 53～74 頁)
- 近藤喬一「西晋の鏡」(『国立歴史民俗博物館研究報告』55, 117～206 頁)
- 末次信行「中国史研究小録ニ一董作賓『甲骨文断代研究例』引用ト辞の出土坑位と時代区分問題について 下」『金蘭短期大学研究誌』24, 51～85 頁)
- 高倉洋彰「前漢鏡にあらわれた権威の象徴性」(『国立歴史民俗博物館研究報告』55, 3～38 頁)
- 高浜秀「オルドス青銅器竿頭飾について」(『MUSEUM』513, 4～19 頁)
- 桃崎祐輔『占墳に伴う牛馬供犠の検討ー日本列島・朝鮮半島・中国東北地方の事例を比較してー』(『古文化談叢』31, 1～141 頁)
- 西田守夫「三角縁対置式系神獣鏡の図紋」(『国立歴史民俗博物館研究報告』55, 85～115 頁)
- 平□隆郎「戦国時代徐州の争奪ー滅宋・滅越問題を中心としてー」(『東アジアにおける生産と流通の歴史社会学的研究』中国書店、24～54 頁)
- 古川徹「仏道混合造像碑考」(『広島文教女子大学紀要』28, 1～30 頁)
- 森本朝子「ベトナムの貿易陶磁ー日本出土の貿易陶磁を中心にー」(『上智アジア学』11, 47～74 頁)
- 山崎一雄・二宮修治・網干守・肥塚隆保「ベトナムで採集された陶磁器片の化学分析」(『上智アジア学』11, 75～86 頁)
- 山本信夫・長谷部楽爾・青柳洋治・小川英文「ベトナム陶磁の編年的研究とチャンパ古窯の発掘調査ーゴーサイン古窯址群の発掘調査」(『上智アジア学』11, 163～180 頁)
- 雪嶋宏一「鍔の用途について」(『草原考古通信』3, 6～10 頁)
- 吉原道夫「立教大学博物館学研究室所蔵甲骨片について」(『MOUSEION』39, 21～24 頁)
- 吉村怜「敦煌石窟における天人像の系譜」(『國華』1177, 3～17 頁)
- 李権生「後崗文化の編年と類型」(『考古学研究』40-3, 81～102 頁)
- 渡部武「画像が語る中国の歴史と文化」(『別府大学アジア歴史文化研究所報』11, 1～12 頁)

【翻訳・訳注】

1 月

●三條彰久「馬王堆帛書『伊尹・九主』をめぐって 訳及び注」(『史学』62-3, 47～74 頁)

●湯池著 勝木言一郎訳「中国古代墓室壁画の発見と研究およびその保護方法について」(『佛教藝術』206, 102～111 頁)

3 月

●J. G. アンダーソン著 松崎哲訳「中国先史時代の彩文土器における象徴性—スウェーデン国立極東博物館紀要から—」(『考古論集—潮見浩先生退官記念論文集—』, 941～948 頁)

●王栄達著 西村俊範訳「修復の観点から殷周青銅器の真偽鑑定問題を論ず」(『和泉市久保惣記念美術館久保惣記念文化財団東洋美術研究所紀要』5, 44～77 頁)

●郭大順著 岡村秀典訳「遼寧先史考古学と凌河文明の探索」(『東北アジアにおける文明の源流の考古学的研究』, 129～141 頁)

●郭大順著 大貫静夫訳「中日共同研究の回顧と展望」(『東北アジアにおける文明の源流の考古学的研究』, 161～166 頁)

●許玉林著 岡村秀典訳「遼東半島石棚と大石蓋墓概論」(『東北アジアにおける文明の源流の考古学的研究』, 142～152 頁)

●辛占山著 岡村秀典訳「桓仁米倉溝高句麗「將軍墓」」(『東北アジアにおける文明の源流の考古学的研究』, 153～160 頁)

●宋伯胤著 老田裕美訳「学瓷一得」(『和泉市久保惣記念美術館久保惣記念文化財団東洋美術研究所紀要』5, 3～43 頁)

4 月

●王世民著 前園実知雄訳「考古学調査に見る両周時代の社会激変」(『シンポジウム「夏・殷・周を探る」』, 45～51 頁)

●高暉著 菅谷文則訳「中国古代礼制形成の考古学考察」(『シンポジウム「夏・殷・周を探る」』, 12～18 頁)

●游修齡著 原島春雄訳「中国の稲に関する文字の変遷と稲作の東伝」(『日中文化研究』4, 156～165 頁)

●劉一曼著 宮原晋一訳「殷墟と中国古代史」(『シンポジウム「夏・殷・周を探る」』, 31～38 頁)

5 月

●安志敏著 徐朝龍訳「高床式建築と「楼閣」」(『弥生の王国—東アジアの海から—』, 89～92 頁)

6 月

●高成英著 北進一訳「中国・四川省の漢代画像石棺の芸術研究」(『エスキス』93, 72～85 頁)

7 月

●王士倫著 王維坤訳「後漢「屋舎人物画像鏡」の図像に関する研究」(『古代学研究』129, 38～40 頁)

9 月

●デリー・F・クリーマン著 福井重雅訳「北アメリカにおける中国学の現状 殷・周・漢を中心に」(『社会文化史学』31, 11～103 頁)

●余家棟著 山崎龍雄訳「吉州臨江窯に関する諸問題の検討」(『貿易陶磁研究』13, 134～145 頁)

10 月

●許明綱著 三宅俊彦訳「日本人の大連における考古活動(1895～1945 年)」(『古代文化』45—10, 47～53 頁)

●孫守道著 宮本一夫訳「三燕時代と古墳時代の騎馬文化の比較研究」(『日本中国考古学会会報』3, 78～83 頁)

●趙化成著 大島誠二訳「早期秦文化の発見とそれに伴う諸問題」(『日本中国考古学会会報』3, 84～95 頁)

●李健超著 張建林・茂木雅博訳「忘れられた古代の遺跡—漢の成帝昌陵, 傅太后陵, 霸城の調査—」(『博古研究』6, 35～39 頁)

●俞偉超・張愛氷著 袁靖・加藤真二訳「考古学新理解論綱」(『博古研究』6, 1～18 頁)

11 月

●張硯著 王建新訳「中国陝西省耀県の碑林(二) 一葉王山の彫像碑—」(『佛教藝術』211, 101～123 頁)

12 月

●朱伯謙著 金沢陽訳註「龍泉青磁簡史(1)」(『出光美術館館報』85, 19～29 頁)

●宿伯著 中川原育子訳「敦煌莫高窟現存最初期窟の年代に関する問題」(『名古屋大学文学部研究論集』美学美術史 11, 75～92 頁)

●李知宴著 後藤雅彦訳「中国貿易陶磁窯址の調査研究」(『上智アジア学』11, 147～162 頁)

発行月不明

●秦大樹著 小野木裕子訳「磁州窯様式の形成と発展」(『東洋陶磁』20・21, 211～233 頁)

【動向】

3 月

●江村治樹「日本における先秦史の研究動向と課題」(『名古屋大学文学部研究論集』史学

39, 43～56 頁)

4 月

●加藤晋平「モンゴル旧石器研究の現状」(坪井清足さんの古希を祝う会編『論苑考古学』, 841～862 頁)

●菊池俊彦「近年の北海道とロシア・中国との共同調査」(『古代文化』45—4, 50～63 頁)

●田中琢「三角縁神獣鏡研究略史」(坪井清足さんの古希を祝う会編『論苑考古学』, 445～460 頁)

5 月

●岸本直文「三角縁神獣鏡研究の現状」(『季刊考古学』43, 52～55 頁)

●張静・後藤雅彦「1992 年考古学界の動向 中国」(『考古学ジャーナル』361, 141～147 頁)

●原宗子「東アジア 中国 戦国・秦漢」(『史学雑誌 (一回顧と展望一)』102-5, 207～214 頁)

●松井嘉徳「東アジア 中国 殷・周・春秋」(『史学雑誌 (一回顧と展望一)』102-5, 200～207 頁)

6 月

●白石典之「モンゴルにおける石器時代研究史」(『古代文化』45—6, 41～48 頁)

7 月

●中村慎一「外国考古学研究の動向・中国」(『日本考古学年報』44, 55～58 頁)

8 月

●坂詰秀一「満州国・康德十一年」の考古事情」(『古文化談叢』30 (下), 1195～1200 頁)

10 月

●秋山進午「新中国においてはじめて行われた日本人研究者による考古学的調査」(『日本中国考古学会会報』3, 96～101 頁)

●廣川守・江介也・鈴木敦「日本における中国考古学関係文献目録(1992 年)」(『日本中国考古学会会報』3, 102～118 頁)

●松丸道雄「甲骨文字の“解読”」(『東洋学報』75—1・2, 193～195 頁)

12 月

●秋山進午「平成 4 年度国際共同研究報告」(『大手前女子大学論集』27, 109～129 頁)

●長谷部楽爾「貿易陶磁研究の歩みー中国, 東南アジア, 日本ー」(『上智アジア学』11, 1～11 頁)

【紹介】

1 月

●窪田蔵郎「鉄は峻険や流砂を越えてーシルクロード見たり聞いたりの旅ー」（『東アジアの古代文化』74, 26～34頁）

●大和岩雄「三角縁神獣鏡をめぐってー樋口隆康『三角縁神獣鏡綜鑑』を読んでー」（『東アジアの古代文化』74, 130～141頁）

●永田英正「新居延漢簡の概観」（『東方学』85, 38～52頁）

3月

●穴沢咏光「＜中国・考古紀行＞中国の古都を訪ねて」（『双葉町歴史民俗資料館研究紀要』2, 22～47頁）

●酒寄雅志「潮海遺跡再訪」（『栃木史学』7, 106～120頁）

4月

●安志敏・賀川光夫・七田忠昭・高倉洋彰・森浩一「南の視点から吉野ヶ里の検証」（『東アジアの古代文化』75, 154～177頁）

●安志敏・樋口隆康・福永光司・森浩一「「森と黒潮」は何を日本に伝えたか」（『東アジアの古代文化』75, 178～187頁）

●岡村秀典・白木原和美・徐朝龍・田平徳栄「弥生文化のキーワード「鳥、舟、貝」」（『東アジアの古代文化』75, 123～153頁）

●樋口隆康「弥生文化と海のシルクロード」（『東アジアの古代文化』75, 88～99頁）

●七田忠昭・白木原和美・森浩一・柳田康雄「吉野ヶ里と海のシルクロード」（『東アジアの古代文化』75, 100～122頁）

●横田賢次郎「中国陶磁器の窯跡を訪ねて」（『文明のクロスロード』43, 65～70頁）

5月

●江坂輝彌「中国浙江省・瑞安市棋盤山上の支石墓見学記」（『弥生の王国ー東アジアの海からー』, 86～88頁）

●高浜秀・湊信幸「東京国立博物館上海博物館展」（『月刊文化財』357, 33～41頁）

●久富正美「日本の稲のふるさと、浙江の旅」（『弥生の王国ー東アジアの海からー』, 10～13頁）

●内藤大典「日本の稲のふるさと、浙江の旅」（『弥生の王国ー東アジアの海からー』, 10・11頁）

6月

●大山みどり「雲南石窟雑感（9）」（『史迹と美術』63-5, 205～209頁）

●長谷川祥子「静嘉堂文庫美術館中国陶磁展 古代から唐代」（『陶説』483, 1～21頁）

7月

●林俊雄「新疆アルタイ地区の遺跡（2）」（『草原考古通信』2, 2～5頁）

8月

●大山みどり「雲南石窟雑感(10)」（『史迹と美術』63-7, 284～288頁）

●西村俊範「中国鏡の新資料ー村上英二氏コレクションよりー」（『日本美術工芸』659,

11～17 頁)

9 月

●西谷正「司会にあたって一日中両国二千年來の文化交流と「滇王之印」金印」(『中日両国二千年來の文化交流“滇王之印”金印』, 5・6 頁)

●松丸道雄「新発見の“中国最古の文字”―山東省出土の“刻字”陶片(上)―」(『出版ダイジェスト』1481)

●矢島律子「町田市立博物館開催「ベトナム陶磁」展について」(『陶説』486, 20～25 頁)

10 月

●佐藤三千夫「『当陽趙家湖楚墓』」(『東洋学報』75—1・2, 139～146 頁)

●三宅俊成「東北考古学七十年」(『日本中国考古学会会報』3, 71～77 頁)

11 月

●王維坤「唐代耀州窯の考古学的発見」(『文化史学』49, 97～124 頁)

12 月

●林俊雄「天山北麓の大型円墳」(『草原考古通信』3, 2～5 頁)

●松丸道雄「新発見の“中国最古の文字”―山東省出土の“刻字”陶片(下)―」(『出版ダイジェスト』1493)

●徐朝龍「長江流域の考古新発見 蘇る東アジア古代世界最古の城市文明」(『しにか』4—12, 76～87 頁)